

私の椅子 その二

池田桂一

雨が止んだ

横断歩道を渡り

古本屋に立ち

ウィンドウの中の自分の

淋しそうな姿を眺め

プラタナスの風にざわめく

舗道を歩いていくと

ふと 私は

お前に逢いたくなくなった

思いがけなく幸せだった 今日

一日を想うと 私は

階段を一步一步

上っていくのももどかしく

どうしたのか

早くお前に 逢いたかった

そこには見ず知らずのひとが

坐っていたけれど

なぜか なつかしいひとのように思えた

好きになつては

いけないひとかもしれない

愛しては

いけないひとかもしれない

いつも 胸一杯ふくらんだ この幸せを

私は 早くお前に話したかった

そう！

逃げてしまわないうちに

逃げてしまわないうちに……